

マカジキ 中西部北太平洋

Striped Marlin, *Tetrapturus audax*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC)

生物学的特性

- 体長・体重：眼後叉長 2.9 m・280 kg
- 寿命：10 歳
- 成熟開始年齢：3～4 歳
- 産卵期・産卵場：4～6 月、北緯 20 度前後の海域
- 索餌期・索餌場：調査中
- 食性：調査中
- 捕食者：調査中

利用・用途

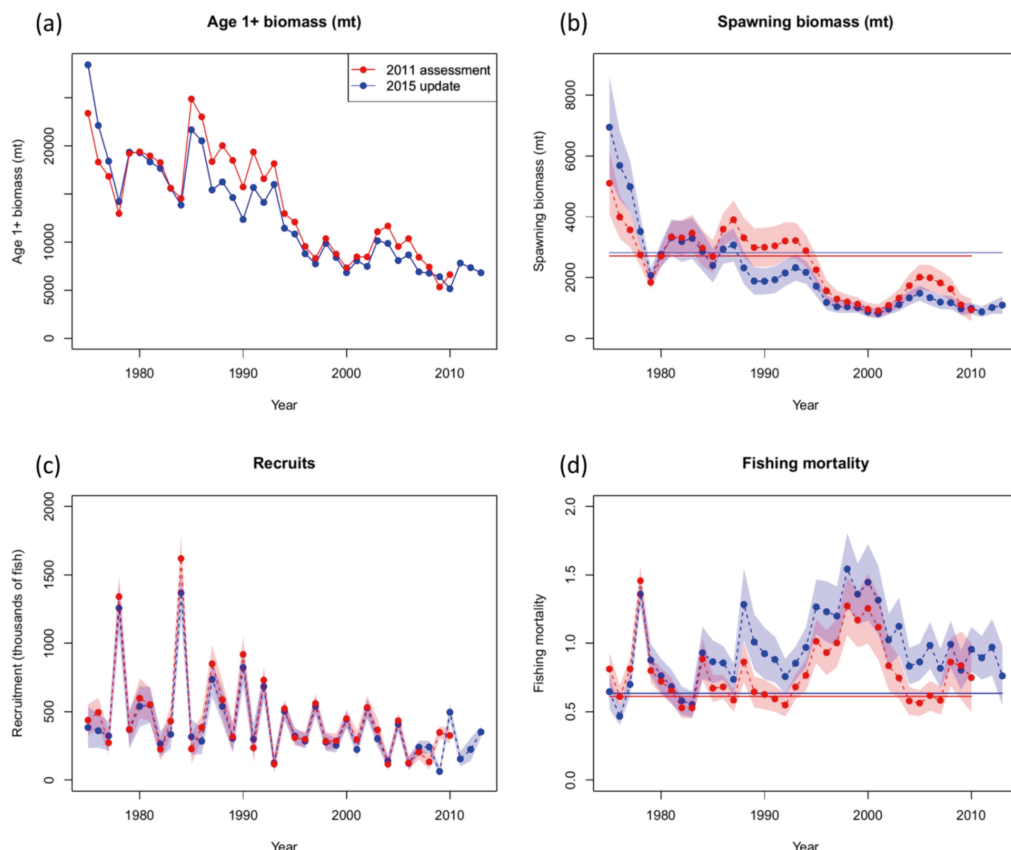
刺身、寿司、切り身（ステーキ、煮付け）

漁業の特徴

我が国の漁獲のほとんどがはえ縄と流し網によるものであり、近年、流し網による漁獲は増加傾向にある。漁獲の大部分はまぐろ類を対象とした操業の混獲であるが、房総沖、釧路沖、南西諸島などではえ縄、突きん棒、流し網などで本資源を主対象とした操業が季節的に行われている。

漁獲の動向

我が国の本資源の漁獲量は、1970 年代に 1 万トンを超えていたが、近年は 1,500 トン前後にとどまっており、2017 年は 1,248 トンであった。ISC が集計した本資源の総漁獲量は、1960 年代前半までは 1 万トン以下であったが、その後急激に上昇し 15,000 トン以上に達した。1970 年代半ば以降は、多少の増減を繰り返しつつも一貫した減少傾向を示し、2017 年には 2,159 トンとなっている。

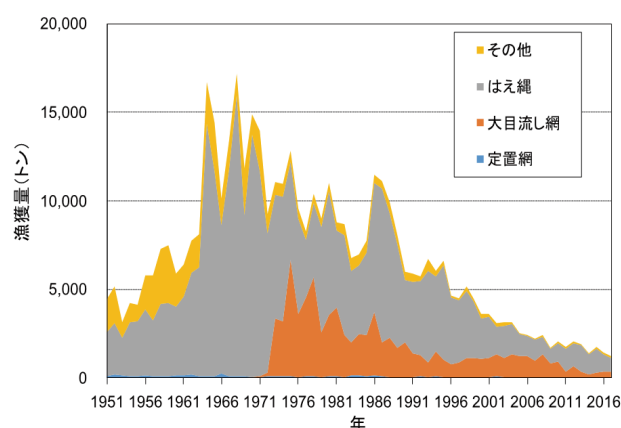


統合モデル (Stock Synthesis 3) の解析結果

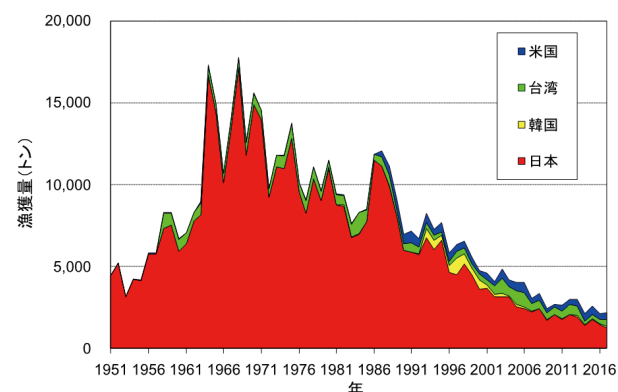
(a) 1 歳以上の総資源量、(b) 産卵資源量、(c) 加入尾数、(d) 漁獲死亡係数。赤色は前回の資源評価の結果、青色は今回の資源評価の結果を示す。b、d で示された水平の直線は、それぞれ産卵資源における MSY、MSY を達成するために必要な漁獲死亡係数を示す。

資源状態

ISC では中西部北太平洋系群と東部北太平洋系群の境界線が西経 140 度にあるとして、中西部北太平洋資源の評価を行っている。最新の資源評価は、2015 年 4 月に ISC かじき類作業部会によって実施された。資源評価モデルは統合モデルの Stock Synthesis 3、将来予測モデルは Rebuilder が使用された。資源評価モデルから、2013 年の産卵資源量は 1,094 トン (SB_{MSY} の 39%)、2010～2012 年の 3 歳以上の平均漁獲死亡係数は 0.94 (F_{MSY} の 149%) と推定された。これらの結果から、作業部会は、現在の資源状態は乱獲状態にあり、かつ漁獲は過剰漁獲にあると結論付けた。他方で、近年のサイズ組成データの変化により選択性と加入の推定が変わった結果、資源量と漁獲死亡率の推定値、さらに、それぞれの基準値の推定値が影響を受けたとされた。また、ISC かじき類作業部会は、将来予測結果を踏まえ、2,850 トン (2010-12 年の平均漁獲量の 9 割) の漁獲では 2020 年までに 19% から 191% までの範囲で産卵資源量の増加が見込めるが、現状の漁獲死亡率では 2020 年までに -18% から 18% の範囲で産卵資源量の変化をもたらすことを勧告した。



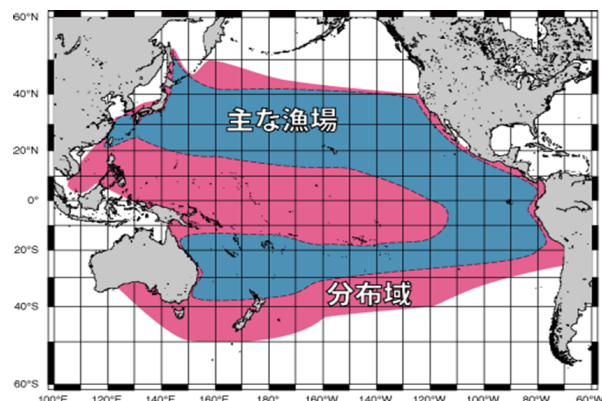
北太平洋（赤道以北）におけるマカジキの我が国の漁業種別漁獲量



北太平洋におけるマカジキの国別漁獲量 (ISC 集計分)

管理方策

WCPFC は、本種の保存管理措置として、各メンバーが漁獲量を 2000～2003 年の最高漁獲量から 2011 年は 10%、2012 年は 15%、2013 年以降は 20%と段階的に削減することを 2010 年に決定している。上述の本資源評価の結果を受け、2018 年の WCPFC 北小委員会は本資源の資源回復計画を策定することを促した。さらに、同年の WCPFC 年次会合では、本資源の資源回復計画を策定すべく、関係メンバーが保存管理措置案を来年の年次会合へ提出することが推奨された。



太平洋におけるマカジキの分布域（桃色）と主要漁獲域（青色）

マカジキ(中西部北太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	低位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (北太平洋) (最近 5 年間)	2,103 ～ 2,988 トン 最近 (2017) 年: 2,159 トン 平均: 2,391 トン (2013 ～ 2017 年)
我が国の漁獲量 (北太平洋) (最近 5 年間)	1,248 ～ 1,924 トン 最近 (2017) 年: 1,248 トン 平均: 1,548 トン (2013 ～ 2017 年)
管理目標	検討中
資源評価の方法	Stock Synthesis 3 による
資源の状態	現在の資源状態は乱獲状態にあり、かつ漁獲は過剰漁獲の状態にある。
管理措置	各国が漁獲量を、2000～2003 年の最高漁獲量から 2011 年は 10%、2012 年は 15%、2013 年以降は 20%削減
最新の資源評価年	2015 年
次回の資源評価年	2019 年